

2022年3月5日かざぐるまデモ Jonathan Deisler (BUND Jugend Berlin)の演説

僕が初めてデモに行ったのは11年前のベルリンでのことです。その時も反原発デモでした。このとき僕は父に肩車をしてもらって、ホイッスルをうるさく鳴らしていました。それが今日、自らデモの舞台上で前に立って演説をすることになりました。どうもありがとうございます。

この前の連邦議会選挙の時は、280万人の人たちに初めて選挙権が与えられました。僕もその一人でした。初めてドイツの政治に積極的に参加し決定権をもち、政党を選ぶことが許されました。初めて、この国をどうしたいか、どのように問題を解決したらいいか、一緒に決定する権利が与えられました。

でもいくつかの重要な問いかけに関しては、僕たちには選ぶ権利はありませんでした。放射性廃棄物を欲しいか？という問いです。この問いかけは65年前にすでに政治家が決めていたからです。1957年以来ドイツには110基もの原子炉があり、高レベルの放射性廃棄物を作ってきました。今年の終わりまでにはなんと約3万立方メートルほどの量となり、その解決方法はまだこれからみつけていかなければなりません。これは低レベル中レベル放射性廃棄物を勘定に入れないもので、これだけで一辺が30メートル以上の立方体に相当します。

このゴミが危険だということは誰でも知っていることです。例えばプルトニウム239はわずかな量を吸い込むだけで（わずかな量と言えばマイクログラムとかナノグラムといった量のことですが）、肺がんを招くと言われていています。ストロンチウム90は体内でカルシウムと錯覚されるため、骨に蓄積され、骨肉腫や白血病をもたらします。それだけに、このような放射性廃棄物が人間や環境と接触しないようにすることが大切なのです。

でもこのようなゴミは単にものすごく危険だけでなく、とても長寿命です。カイロでピラミッドが建てられた4600年前に原発が建てられ、たった4年だけ稼働していたと仮定してみると、それだけで1000キロのプルトニウム239を生み出していたこととなります。そしてそのうち今日でも877キロが残っていて、それを我々が安全に保管していなければならないこととなります。そして25万年経っても、まだ1キロのプルトニウムが残っていて、それは危険なままなのです。ピラミッドの時代にたった4年間原発を稼働していたら、という仮定で、こういうことなのです。

最終処分場に対する要件はだから非常に多く、同時に非常に高くなるのもコストです。放射能のごみを保管するコンセプトはしかし存在しなければ、まして場所もないため、費用は正確には算出することはできません。それでも単に運搬と中間貯蔵のためだけに何百億ユーロというお金をすでに費やさなければなりませんでした。

本来ならば原子力エネルギーの事後的費用は企業が負担すると、そう原子力法に書いてあります。でもこのモデルには2つ問題点があります。

まず、十分に準備金を積み立てるための時間は原発の建設時に予定されている稼働年数で割られて計算されます。でも原発が予定より早く停止されると、積立金が保証されなくなるので、国が穴埋めをすることになります。

二つ目の問題は、原発から出るゴミは再処理施設にも好んで売られます。ここではこうした放射性廃棄物をリサイクルして、残った燃料をさらに濃縮し、また使えるようにします。しかしここでもまた、放射性のゴミが出ます。でも、ここで作るゴミは、本来原発から出たゴミであったのにも関わらず、再処理工場のものとみなされます。そしてこの再処理施設というのは公共の施設なのです。つまり、国がまたここでもその費用を支払うことになり、原発を操業している電気会社は、知らん顔ができるというわけです。

このようにして、アッセ放射性廃棄物処分場で使われた20億ユーロのほとんどは、税金で賄われることになりました。

このように費用が不平等に負担されるという事実を一番強く感じるのが若い世代です。というのも、我々若者たちには、原発のゴミを作りたいか作りたくないかということを選択できなかったからです。それなのに、この極度に危険な廃棄物を責任をもって取り扱うという課題だけが押し付けられるのです。気候危機の場合と同じように、政治家たちは65年前に、結果がどうなるかわかっていて決断を下し、勘定だけは後の世代に押し付けていったのです。これから何代もの世代が負担していかなければならない勘定です。

だから今こそ訴えます。

- 企業に責任を取らせ、自分たちの作った放射性廃棄物の処理にかかる費用を払わせること
- ドイツではこれ以上放射性廃棄物を作らないこと、リンゲンとグローナウは停止すること
- 世界全体で原子力エネルギーから脱却し、その第一歩として EURATOM（欧州原子力共同体協定）を解約すること

そして一緒に呼びかけましょう。原発やめろ！